



夔州縣
史編纂
係之印

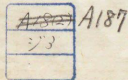
鳳凰山甚目寺畧緣起

187
シ'3



尾張國海東郡甚目寺畧縁起

當山本尊正觀世音菩薩とヤもるハ大聖
釋迦世尊毘舍羅國大林精舎小御座し時
國中惡病起りて人民遁る者なく長者月蓋
息女も此惡病を受得り時ハ長者悲歎の終り
世も不請ひもつれハ則世告曰西方極樂
彌陀如来と云御坐り此如来此御願力なりてハ



汝が女の病癒るもあはれ是小おいて長者一心を念し
まうるれハ一光三尊光哉放ちて長たう家小影向し
とまへハ息女が病立所小平癒長者歡喜不堪とし
あ如来に随喜しませハ世尊月蓋三惡念忽ふひる
かつし事を憐み多し闇浮檀金哉瑠璃此鉢了
かりて二尊光明を放ちまへハ自一光三尊形像出現
しむつ其後三像百濟國小渡らせ多し子餘未だ聞

化益し多ししが一夜彼國主小靈夢ありあ大同本國に
ととを移し衆生哉大小濟渡しとほり、漸十九年
を移く守屋大臣、惡逆より難波の池ふ入水し多う
其後三十六年を過て 推古天皇御宇四年たらし
伊勢國甚目村より甚目龍麻呂と去者あり或夜
海邊に遊漁しあ當所た入江今の觀音池是あり小あり網を下
せしふ網中より金色の光明赫奕し敬馬多引上

是城これハ紫金あまねハ觀世音菩薩くわんせいおんぼさつ少すくなく御坐ごまる龍曆りやうりき歡喜くわんぎ
踊躍おどどして此地このちハ滯とどまり堂宇どうう城建立じやうけんりやうし寺号てうごうと甚目寺しんめうじと
稱なづし即すなはち額がく城南門なんもんハ揚ありき然しかるハ同帝どうてい卅五年じやうごハ
當あたり難波なんぱの池いけより出現しゆげんれ一光いっくわう三尊さんそんの尊そん像ざうハ信州しんしゅう
水内郡すゐないぐんハ草創そうそうれ善光寺ぜんくわうじに安置あんじしなれり其その砌せき龍曆りやうりき
感得かんとくの尊そんハ彼か一光いっくわう三尊さんそんハ此この殿だん士しハ系けいよりハ城
觀み聞きあり多おほ乃すなはち善光寺ぜんくわうじハ秘ひされ是このハ當山たうざんハハ聖德太子せうとくたいし此

御作ごさく土佛どふつハ十一面觀世音菩薩じゅういちめんくわんせいおんぼさつを本尊ほんそんと山宗あまねハ
ちちハ不思議ふしぎあるハ乃すなはち善光寺ぜんくわうじハ秘ひされちちりし
此この系けい金かねハ尊像そんざう秘ひ藏かくれ本佛ほんぶつと山宗あまねハ土佛どふつの尊像そんざうと前立まへだちと
尊像そんざうを秘藏ひかくれ本佛ほんぶつと山宗あまねハ土佛どふつの尊像そんざうと前立まへだちと
こころ奉ほう奉ほう今般闍帳こんぱんせつちやうの尊像そんざう是このハ右みぎハ故ゆゑあり家いへによりて聖德太子せうとくたいし此
靈像りやうざうを刻きて堂内だうないハ安置あんじしむハ今後堂こんごうだうの形像けいざう是このハ次つぎハ
天智天皇てんぢてんわう例れいあり御坐ごまるハ遙とほハ當山たうざんハ觀音くわんおんの

靈威を 敷聞ありて 勅願ありては 立所ふ平癒し
るふ是ふより 尤小舟兼盛哉 勅使として 勅願寺に
綸旨を下し 且天下太平に 三種の神寶を
勅附し 次ふ 天武天皇に 御宇白鳳八
已卯年 宣命ありて 三間四面に 樓門を御建立あり又
鳳凰山の 勅額を賜ふ 即東門に 掛くとや 今法界
門と云
所此門の
古跡あり 次ふ 文徳天皇 堀河院 崇徳院 御代々々

よも 江北の 弥陀堂

今光明坊の
本尊是なり

江西に 釋迦堂

今釋迦堂此
なる是なり

江上の 地藏堂 寺諸伽藍 御建立 全備し 多威光 他山ふ
越えし 回録地 震れ 變易一と なるほ くと亡ひとん
とま 然る 小本尊の 靈運より 新あり 後鳥羽院

此御宇 建久七 丙辰年 二月 當山中 興閑山 聖觀上人
十方を 勸進し 再建 成企ありて 土御門院の 御宇
建仁元年 辛酉 十一月 棟梁せしめ 畢 即今此佛
閣是あり 此時の

勅使大膳太夫安部資元朝臣とて、か往昔こゝろより
かふる靈驗れいけんあらむな御佛ごぶつふれ、東照神君も
三百石の寺領に寄せ賜ふ是よりして諸人結縁往生
成佛の利益を得さむと聞帳せしむるものあり

文化二年乙丑二月